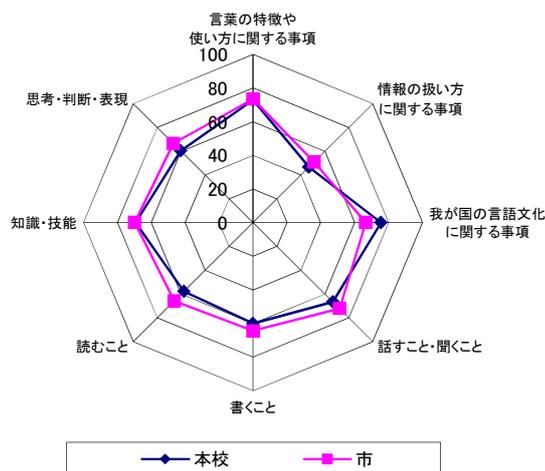


宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.9	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	46.7	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	75.6	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	66.7	72.3	73.7
	書くこと	60.0	64.3	66.6
	読むこと	57.8	65.8	64.9
	観点別	知識・技能	69.4	69.8
思考・判断・表現		60.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

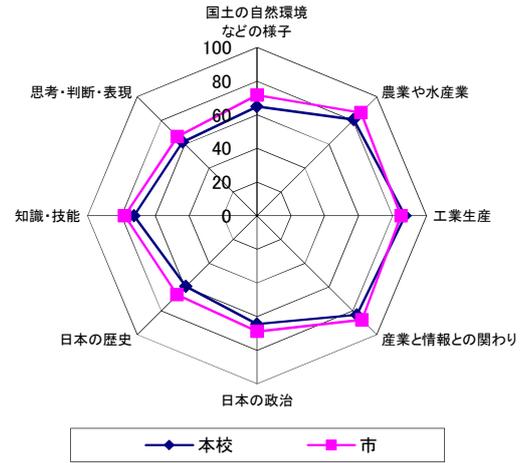
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○漢字を正しく書く問題の正答率が高い。 ●文と文の接続の関係に関する問題の正答率が低い。	・新出漢字を学習する際に、字のもつ意味や熟語も併せて学習した成果だと考えられる。 ・接続詞の使い方の理解を深めるため、接続詞がどのように使われているのか意味や役割に着目し、文章を正確に読み取ることができるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題の正答率が高い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の正答率が低い。	・目的に応じた文章を書く力を育むために、新聞記事の内容を簡潔にまとめたり、複数の資料を用いて調べたことを表現したりする活動を設定した成果だと考えられる。 ・必要な情報を読み取り、整理する力を育むために、資料の情報を要約したり、情報を比較、分類、関係付けて図示したりする活動を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○和語、漢語、外来語に関する問題の正答率が高い。	・身の回りの語句について、由来や語源を調べる活動を取り入れ、和語、漢語、外来語について理解を深められるようになってきた成果だと考えられる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話の内容を捉えているかを問う問題の正答率が低い。	・話の内容を正確に捉える力を育むために、話の内容をメモし、話の構成の理解につなげたり、話し手の意図を考えながら情報を整理したりする活動を設定する。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率が高い。 ●自分の意見とその理由を明確にしたり、予想される反論とそれに対する意見を書いたりする問題の正答率が低い。また、無回答率の割合も市の平均より高い。	・段落の役割に着目し、文章の構成を意識しながら段落を付けて文章を書く活動を繰り返し行ってきた成果だと考えられる。 ・自分の考えを整理し、目的に応じた文章を書く力を育むために、構成メモを作るなどして、論点を明確にしながら文章を書く活動の充実を図る。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題の正答率が高い。 ●登場人物の心情について、描写を基に捉える問題の正答率が低い。	・序論・本論・結論の構成を捉えながら文章を読み進めたり、接続詞などに着目しながら、要旨を捉えたりする活動を繰り返し行ってきた成果だと考えられる。 ・根拠となる叙述を明確にしながら物語文を読んだり、友達と考えを交流し、自分の考えを深めたりすることで登場人物の心情を捉えられるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.9	71.6	69.6
	農業や水産業	80.7	86.7	83.7
	工業生産	87.4	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	83.3	87.7	77.4
	日本の政治	64.4	68.9	71.7
	日本の歴史	59.4	66.7	66.3
観点別	知識・技能	72.5	78.0	76.7
	思考・判断・表現	61.9	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

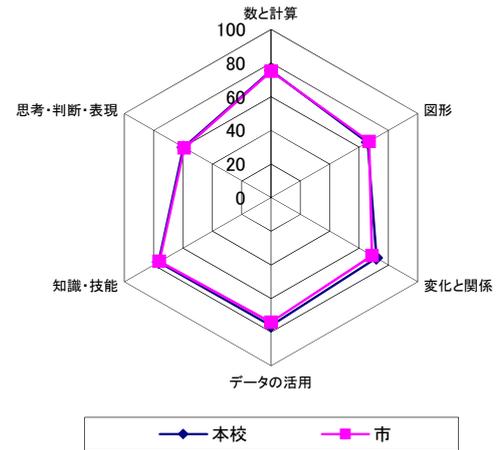
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○オーストラリアの位置と国旗を問う問題の正答率がやや高い。 ●日本の周辺の海洋名や日本の主な地形の名称を問う問題の正答率が低い。 ●国内の林業が抱える課題について問う問題の正答率が低い。	・世界の大陸と主な海洋や国土の構成など、基礎的な知識の定着に課題が見られる。地理的情報の復習を行う際には、地図帳や地球儀を活用することで、イメージをもてるようにし、知識の定着を図る。 ・林業については我が国の重要産業であり、環境保全や資源の観点からも児童の生活と結び付いている。しかし、そのことを実感できていないことが課題である。鉛筆など身近な道具を取りあげ、林業との関連を実感できる場を設定していく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●水産物の流通の工夫について、資料を基に判断する問題の正答率が低い。	・資料から読み取ったことを基に、考えを広げていくことに課題が見られる。本問題で言えば、魚を冷凍保存して輸送することは読み取れるものの、そのメリットを考えることに課題がある。資料の読み取りの際には、読み取ったことを基に考える活動を重視し、考えを深められるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均より高い。 ○工業製品の分類について問う問題の正答率が高い。 ○自動車の製造工程についての理解を問う問題の正答率が高い。	・自動車については、児童の生活に深く関わっており、イメージをもちやすく興味関心が高いと考えられる。自動車に限らず、日本の主要な工業生産の学習をする際には、動画資料を活用するなどして、具体的なイメージをもって学習できるようにしていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率が低い。	・情報の扱い方については、児童の生活と深く関わっているものの情報活用能力に課題が見られる。社会に限らず、国語や総合的な学習の時間など他教科との関連を図り、より安全に情報を活用できる力を育成していく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ○内閣の働きについて問う問題の正答率が高い。 ●天皇の地位や国民の義務について問う問題の正答率が低い。	・自分たちの生活は政治と結び付いているということを、児童の生活と身近なものを例に学習してきた成果と考えられる。 ・日本国憲法の理念について、知識の定着に課題が見られる。権利の保障だけではなく、国民が果たすべき義務を果たすことで豊かに暮らせるようになるということについて、復習の場を設ける。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○江戸幕府の鎖国の窓口について問う問題の正答率が高い。 ●縄文時代の生活の様子について問う問題の正答率が低い。	・薩摩藩や対馬藩など、藩の名前だけではなく現在でいうどのあたりの地域なのか、その都度、地図帳等を用いて確認を行ってきた成果と考えられる。 ・縄文時代に使われていた道具について、使用目的まで理解できていないと考えられる。歴史を学ぶ際に、ただ単に用語の確認にとどまらず、用語の意味や位置付けまで広く体系的に復習し、深めていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.6	75.1	75.8
	図形	65.8	66.8	68.3
	変化と関係	71.9	68.8	65.0
	データの活用	76.2	74.1	63.6
観点別	知識・技能	76.6	76.1	75.8
	思考・判断・表現	59.7	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

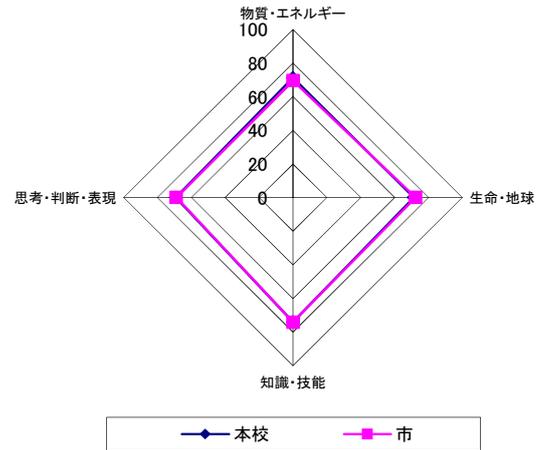
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○小数や分数の基本的な計算問題の正答率が高い。</p> <p>●xやyを使って表された式で、xの値が分かっているときにyの値を求める問題の正答率が低い。</p>	<p>・朝の学習などで、計算問題に繰り返し取り組んできた成果だと考えられる。</p> <p>・文字を使って表された式について、文字が表しているものや式が表す数量関係を説明できるようにすることで、文字で表された未知数を求めることができるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○合同な三角形を作図する問題の正答率が高い。</p> <p>●角柱の体積を求める問題の正答率が低い。</p>	<p>・習熟度学習で、三角形が合同であるための条件を導き、作図の仕方について繰り返し学習してきた成果だと考えられる。</p> <p>・体積の概念について、立体模型を使うなど視覚的に捉えられるようにしていく。また、様々な類題に繰り返し取り組み、知識の定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○速さと道のりから、時間を求める問題の正答率が高い。</p> <p>●表から与えられた情報を用いて、最も混んでいる場所を考察する問題の正答率が低い。</p>	<p>・速さの学習について、立式するだけでなく、その式が意味することを説明する活動を行ってきた成果だと考えられる。</p> <p>・単位量あたりの数に着目し、また、人口密度など関連する学習においても、数が表す意味に着目し、理解を深められるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○平均値や中央値を正しく求めたり、データを度数分布表に表したりする問題の正答率が高い。</p> <p>●最頻値を求める問題の正答率が低い。</p>	<p>・平均値や中央値の考え方をを用いて、身近なデータの分析について繰り返し取り組んできた成果だと考えられる。</p> <p>・最頻値の考え方を再度復習し、データの散らばりの様子の特徴を説明する際に、最頻値を意図的に取り上げ、よりよいデータ分析ができるようにしていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.3	69.5	65.2
	生命・地球	71.3	72.3	70.1
観点別	知識・技能	74.0	74.0	70.7
	思考・判断・表現	69.3	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○ふりこの周期はふりこの長さに関係することを理解し、同じ周期になるふりこを指摘する問題の正答率が高い。</p> <p>●鉄やアルミニウムは、うすい塩酸に溶けることの実験を問う問題の正答率が低い。</p>	<p>・ふりこをはじめ、児童の生活に関連がうすいと思われる事象については、導入時の体験活動を重視してきた成果と考えられる。引き続き、体験を重視しながら実感を伴った理解を図ることができるようにしていく。</p> <p>・金属と塩酸の反応についての知識が定着していないと考えられる。定期的に復習の機会を設け、トイレ用洗剤など塩酸が含まれている水溶液の注意書きをとりあげるなど、学習と生活の関連を図りながら確実な知識の定着につなげていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○植物のつくりについて、予想が正しかった場合の結果の様子を推測する問題の正答率が高い。</p> <p>●月の満ち欠けに関する問題に課題が見られ、月に関する和歌から、実際に見える月の形を推測する問題の正答率が低い。</p>	<p>・学習問題に対して、予想を立てるだけでなく、実験を行う際には、「自分の予想や仮説が正しければ、どんな結果が得られるか」という結果の見通しを立てることを重視してきた成果と考えられる。引き続き、結果の見通しを立てて実験に取り組むようにする。</p> <p>・学習内容と関連のある身の回りの事象について積極的に取り上げ、学習したことを使って考えを広げていく学習活動を重視し、学習と生活の関連を図れるようにしていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を明確にした話し合い活動を取り入れるなど、話し合い活動の質の向上を図る。 ・ICTを含めたツールなどを活用しながら、互いの考えを共有し、学び合いを通して考えを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動に自分から進んで参加していると認識している児童が多い一方で、自分の考えを根拠をあげながら話すことについては肯定割合が低くなった。 ・ICTの利用については9割以上の児童が肯定的に捉えている。さらに、パソコンを使って自分の考えを伝えることできていると答えている。
基礎的な知識・技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習にT・T体制を取り入れたり、習熟別プリントに取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・家庭学習強化月間を取り入れ、学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数、理科について、基礎の部分は市の平均正答率を超えるようになった。特に算数については、領域ごとにも市の平均を超えた領域が多く、基礎基本が身に付いてきている。 ・家庭学習において、目安の時間に取り組む児童が昨年度に比べ3割ほど増えた。また、休日にも取り組む児童が増えてきている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習する意義や有用感、学ぶ楽しさを感じられる授業
学習嫌いだと感じている児童が多いため、学習内容と児童の生活との関連を意識した導入や、問題解決できたときの達成感を味わえるような授業を展開できるようにする。
- ・協働的な学びの質の向上
話し合い活動に対しては肯定的に捉えている児童が多いので、協働的な学びの質の向上を図り、児童の考えの深まりを感じられるような授業を展開できるようにする。
- ・基礎基本の確実な定着
朝の学習や家庭学習強化月間について改善を図りながら、児童の基礎基本の定着を図れるようにする。